



「あなたの当たり前は、誰かの魅力かもしれない…」

地元の良さ、再認識

大田原通信

大田原市移住・定住交流サロン通信

大田原に住んでいる私たちが「当たり前」と思っていること…。それが移住してきた人にとっては「魅力」に感じられています。この通信では、そんな大田原の魅力について、毎月1回お伝えしています。

「楽しんでやってみる」農家のエジソン

— 身近な材料で作品を作る —

ゆみざ いちろう
弓座 一郎 さん

『大田原通信24号』で紹介させていただいた後藤さんが「農家のエジソン」と呼ぶ、両郷地区にお住まいの弓座一郎さん。地面を這わさずに育てる「空中スイカ」をはじめ、桃、梨、ブドウ、メロンなど、様々な農作物を育てている。また、農閑期には山や河原で集めた素材を使って、かやぶき屋根の古民家や水車小屋のミニチュア模型を作っている。



生家を復元した作品と弓座さん。

●全ては好奇心

弓座さん—「昔からいろんなモノ作りがしたくて。小学生の頃、銀杏の葉っぱと草を組み合わせて、蝶々を作ったんです。それを先生に見せたら『一郎、すごいな〜』って褒められて嬉しかった記憶が残っています。だから、自分でこれはすごいなって思ったら、何でも作ってみたいんです。」

●「もっと楽しく、もっと良くなる」を形に

弓座さん—「もともと盆栽を育てていて、その横に家や水車があったらいいんじゃないかと思い、ミニチュア模型を作り始めました。ある時、友人に『水車は回らないと面白くないね』って言われて、モーターで回るようにして…。そうしたら次は『水車は水で回るもんだよ』と言われて（笑）。ポンプで水を吸い上げて水車を回すように、改良を重ねました。」



ミニチュア模型は囲炉裏やかまどなど、細部まで再現されている。



旅をしているような気分になる、弓座さんのミニチュア模型。

●気兼ねなくいられる場所づくり

友達と話している中からアイデアが浮かび、それを形にする弓座さん。お茶飲み場や作業場も、自らが建てたと言う。

弓座さん—「仕事が落ち着いたら、好きなものを作って遊ぼうと思って…。いろいろ作りたくて機械を揃えたし、寒い時に暖を取れるように、廃油ストーブも作りました。『コタツでちょっと温まっていきなよ』って言っても、農家は長靴を履いたり、土がついていたりして入りづらい。だから、靴を脱がない場所の方が、気兼ねなく立ち寄れますよね。」

●楽しく生きる秘訣は「自分を活かし、人とふれあう」

弓座さんー「工作でもいい、読書でもカラオケでもなんでもいい。自分を活かす何かがあると楽しいですよ。それと、隣近所と仲良くすること。うちのお隣さんたちとは、おしゃべりして、笑って…。そういうふれあいが一番大切だと思います。」



お話を伺っている最中、あっという間に部品ができてしまった。

●できた喜びを次の世代に…

最後に、移住を希望する人、そして若い世代の皆さんへ。

弓座さんー「まずは隣近所の人たちの話をよく聞いて、地域に馴染むこと。その中でいろいろ聞いたことを元に、梨でもスイカでも自分で作ってみたり、行動してみる。失敗は誰にでもあるので、まずは興味を持ってやってみて、できた喜びを次の世代に伝えていけたらいいですよ。」



作品の一部をご紹介します



ツルを痛めることもなく収穫！



針金細工



「米袋を持ち上げるのが大変」という奥様の声からできた作品



取材した方に聞きました 「あなたの好きな大田原」

黒羽城址公園 (前田)

紫陽花の季節にはご夫婦で散歩に出かける場所なのだそうです。川西地区が一望できる所も弓座さんのオススメポイント！



いい眺め！



空き家をお持ちの方！
今後のことを
考えてみませんか？

空き家バンク

「空き家バンク」は、所有している空き家の情報を登録していただき、利用したい方に情報提供する制度です。

詳しくは下記の担当課にご連絡ください。

建築住宅課 Tel : 0287-23-1916

お問合せ

大田原市の移住相談窓口

大田原市移住・定住交流サロン

大田原市本町1-4-1 大田原市役所A別館2階

Tel : 0287-23-8794 (平日/9:00~17:00)

Mail : salon@ohtawara-ijyu.jp



大田原の暮らし、地域情報など発信中！

担当課：大田原市役所 総合政策部 政策推進課